



# 健康な牛と良い環境から生まれる おいしくて安全、質が良い岐阜の生乳

## 岐阜の酪農



合同会社にしお牧場(中津川市蛭川)  
西尾 直樹さん

岐阜の肥沃な土地と豊富な水、そして澄んだ空気に育まれた農産物と生産者を紹介するシリーズの25回目は酪農と和牛繁殖農家の西尾直樹さんです。令和元年に祖父が始めた「しお牧場」の三代目を継いだ直樹さんは、経営移譲とともに「しお牧場」を法人化。できる限り自給飼料にこだわり、環境に優しい循環型酪農を目指しています。地元の消費者のためのおいしい牛乳づくり、そして和牛繁殖に励む直樹さんにお話をうかがいました。

**循環型酪農を目指し 自給飼料にこだわり**  
しお牧場では、乳牛35頭と和牛繁殖用の雌牛25頭を飼養。搾乳した生乳は美濃酪農農業協同組合連合会に集乳され、「産地限定みのじ牛乳」や「ひるがのヨーグルト」などの製品となつて出荷されています。  
「牧場の仕事は両親と私の3人で分担し、事務作業は妻に手伝ってもらっています。大切にしているのが自給飼料づくりです」と話す西尾さん。牛の餌となるとうもろこしの栽培面積が約45ヘクタールあり、冬場は牧草も栽培しています。ただ、この面積で栽培できるのはしお牧場に飼っている牛が年間に必要とする餌の全量の2割ほど。  
「それでも自分ではできる限り、自分のところで作った餌と循環型酪農にこだわりたい」と思っています。循環型酪農というのは牛から出た堆肥を畑に入れて牛の餌をつくり、それをまた牛に食べさせるという循環の中で乳を絞ること。牛の堆肥をうまく利用する方法として自給飼料は最適だと考えています。

**牛舎の環境づくり**  
それは西尾さんのお爺さんがこの地を開拓して以来、お父さんも畑を作りながら続けてきたことでもあり、「地域の農家さんに貢献でき、皆さんに安全でおいしく新鮮な牛乳を飲んでいただけることに繋がっている」と西尾さんがその思いを引き継いでいます。  
「それは西尾さんのお爺さんがこの地を開拓して以来、お父さんも畑を作りながら続けてきたことでもあり、「地域の農家さんに貢献でき、皆さんに安全でおいしく新鮮な牛乳を飲んでいただけることに繋がっている」と西尾さんがその思いを引き継いでいます。」

**地元のおが粉で極上ベッド**  
こゝ蛭川の冬は寒く水点下10度まで下がり、夏は40度近くまで上がることもあり、牛の体調管理はとても重要です。「毎日の健康チェックはもちろん、牛舎を清潔に保つことも力を入れています。牛の腹下の敷料として、おが粉を使っているのですが、東濃地域では木材の生産が盛んなため、これが手に入りやすい。また、このおが粉と牛の糞を混ぜることで良質な堆肥も作ることができ、この地域で酪農をやっていると実感しています」と西尾さん。西尾さんは県立恵那農業高校を卒業後、北海道の酪農学園大学で本格的に畜産、酪農を学びました。家業



生乳60%に生クリームとプロバイオティクス菌株BB-12乳酸菌を添加したヨーグルト(左) 岐阜県産生乳のみを使用した、こだわりの生乳100%牛乳(右)



しお牧場では和牛の繁殖も行っている



自給肥料を与える西尾さん

を継ぐため蛭川に戻ったものの、「実際仕事を始めてみたら学校で習ったこととは全く違い、分からないことが多かった」と振り返ります。  
「機械の動かしか方から何から実地で学んでいった感じです。酪農は牛を飼うだけではなく、餌づくりや絞った乳の衛生管理まで幅広い知識と技術が必要ですが、でも、難しいからこそ順調に牛が妊娠し、子どもが産まれてくれると嬉しいですし、それによって経営が順調に回れば、やがて面白く感じます。なかなかうまくいかないことも多くありますが、家族全員で力を合わせて頑張っています。」  
そして、酪農家が減っていく中だからこそ西尾さんが大切にしているのが、若手同士の繋がり。「今、管内で自分と近い年齢の若手は3人。岐阜県全体でも16、7人くらいです。岐阜県酪農青年女性会議の委員長も任されていますので、経営発表大会や研修会などを通して情報交換や研鑽を続けると同時に、岐阜県産牛乳のPRなどを行っていきたい」と話します。



**農の現場から／JAひがしみの 畜産担当 森山善隆さん**  
東美濃は中山間地の気候や豊かな水を活かして栽培される美濃コシヒカリやトマト、ナス、クリ、肉牛生産、酪農で知られています。JAひがしみのでは地域活性化に取り組みながら、安全・安心な農畜産物の生産をサポート。営農指導員が農家に出向いて数年先までを見据えた生産活動や販売などの支援、ご相談に応じています。  
JAひがしみのでは夏秋トマト研修制度やクリ新規栽培チャレンジ塾など新規就農希望者への制度も充実させ、地域に即した農業を推進していきます。

**将来は6次産業化や 設備導入も視野に**  
西尾さんがしお牧場を継ぐ際に法人化した理由は、将来の選択肢が広がるという思いがあったから。「今後従業員を雇う状況になった場合、法人化していれば社会保険も充実できます。加えて、「将来6次産業化を目指す際には、会社法人の方が取引先相手の信用が得られるメリットも考えました」と話します。「長く続けて、良い形で次の世代に引き継いでいけたら」と西尾さん。その間、頼りにしているのがJAバンクのサポートです。  
「今、和牛のいる牛舎はJAのリース事業を利用して建てました。奥にあるもう一つの牛舎が古くなってきたので、近いうちに建て替えも必要になります。JAのリース事業や自治体の補助事業があれば利用したいと思っていますので、色々相談させてもらいたい」と西尾さん。「うちのようないくつかの規模でも使えるようなものがあれば導入していきたいです」と、その目は既に未来を見据えています。

本広告に関するご意見や感想をお聞かせください。抽選で「チーズケーキ(12個入りセット)」をプレゼント!

抽選で10名様にプレゼント

口どけが良くコクのあるクリームチーズをベースにした贅沢な「手作り風」ケーキです。

①郵便番号・住所②氏名③電話番号  
④紙面に関するご意見を明記して下記の方法でお申し込みください。  
【はがき】〒500-8875(住所不要)  
中日新聞 岐阜支社 広告部  
「ぎふの農業人」係

10月21日(金) 必着

※個人情報(賞品発送)において使用し、適正に管理します。  
※当選者の発表は、賞品の発送(翌月予定)をもってさせていただきます。

美濃酪農農業協同組合連合会の商品はこちら



### 耕そう、大地と地域の未来。

ぎふの農業人の過去の記事はこちらから ▶



学校給食でも愛飲される牛乳は、地域の健康的な食生活を支えています。  
安全・安心にこだわった本物の味を食卓に届けたい。